

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 3 月 1 日 (2007.3.1)

【公開番号】特開 2004-144850 (P2004-144850A)
 【公開日】平成 16 年 5 月 20 日 (2004.5.20)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-019
 【出願番号】特願 2002-307426 (P2002-307426)
 【国際特許分類】

G 1 0 L 15/18 (2006.01)

G 0 6 F 3/16 (2006.01)

G 1 0 L 15/00 (2006.01)

【F I】

G 1 0 L 3/00 5 3 7 G

G 0 6 F 3/16 3 4 0 A

G 1 0 L 3/00 5 5 1 L

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 1 月 12 日 (2007.1.12)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 音声によって数値データを入力するためのデータ入力装置であって、過去にされた数値データを保持する保持手段と、前記保持手段が保持する数値データから、されると推定される数値の範囲を求める計算手段と、数値を表現する音声が入力されると、当該音声に基づいて音声認識を行う音声認識手段と、前記音声認識手段による認識結果が示す数値が、当該計算手段により求めた範囲に含まれているか否かを判断する判断手段と、前記判断手段による判断結果に応じた内容を提示する提示手段とを備えることを特徴とするデータ入力装置。

【請求項 2】 音声によって数値データを入力するためのデータ入力装置であって、過去にされた数値データを保持する保持手段と、前記保持手段が保持する数値データから、されると推定される数値の範囲を求める計算手段と、前記計算手段が求めた範囲に含まれる数値を認識するための認識文法を生成する文法生成手段と、数値を表現する音声が入力されると、当該音声に基づいて前記認識文法を用いて音声認識を行う音声認識手段とを備えることを特徴とするデータ入力装置。

【請求項 3】 音声によって数値データを入力するためのデータ入力装置であって、過去にされた数値データを保持する保持手段と、数値を表現する音声が入力されると、当該音声に基づいて音声認識を行う音声認識手段と、前記音声認識手段による認識結果が示す数値が、従前にされた数値よりも大きい
 否かを判断する判断手段と、

前記判断手段による判断結果に応じた内容を提示する提示手段と
を備えることを特徴とするデータ入力装置。

【請求項 4】 前記判断手段は、前記音声認識手段による認識結果が示す数値が、前記計算手段により求めた範囲に含まれている場合には、当該認識結果が示す数値を入力すべき数値データとして判断することを特徴とする請求項 1 に記載のデータ入力装置。

【請求項 5】 前記判断手段は、前記音声認識手段による認識結果が示す数値が、前記保持手段に格納された順で最も新しい数値よりも小さい場合には、当該認識結果が示す数値を入力すべき数値データとして判断することを特徴とする請求項 3 に記載のデータ入力装置。

【請求項 6】 前記数値データは、検針することで得られるメータの値を示すデータであることを特徴とする請求項 1 に記載のデータ入力装置。

【請求項 7】 前記データ入力装置は携帯端末であることを特徴とする請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に記載のデータ入力装置。

【請求項 8】 過去に入力された数値データを保持するメモリを備え、音声によって数値データを入力するためのデータ入力装置が行うデータ入力方法であって、

前記メモリが保持する数値データから、入力されると推定される数値の範囲を求める計算工程と、

数値を表現する音声が入力されると、当該音声に基づいて音声認識を行う音声認識工程と、

前記音声認識工程による認識結果が示す数値が、当該計算工程で求めた範囲に含まれているか否かを判断する判断工程と、

前記判断工程による判断結果に応じた内容を提示する提示工程と
を備えることを特徴とするデータ入力方法。

【請求項 9】 過去に入力された数値データを保持するメモリを備え、音声によって数値データを入力するためのデータ入力装置が行うデータ入力方法であって、

前記メモリが保持する数値データから、入力されると推定される数値の範囲を求める計算工程と、

前記計算工程で求めた範囲に含まれる数値を認識するための認識文法を生成する文法生成工程と、

数値を表現する音声が入力されると、当該音声に基づいて前記認識文法を用いて音声認識を行う音声認識工程と

を備えることを特徴とするデータ入力方法。

【請求項 10】 過去に入力された数値データを保持するメモリを備え、音声によって数値データを入力するためのデータ入力装置が行うデータ入力方法であって、

数値を表現する音声が入力されると、当該音声に基づいて音声認識を行う音声認識工程と、

前記音声認識工程による認識結果が示す数値が、従前に入力された数値よりも大きいかな否かを判断する判断工程と、

前記判断工程による判断結果に応じた内容を提示する提示工程と
を備えることを特徴とするデータ入力方法。

【請求項 11】 コンピュータを請求項 1 乃至 7 の何れか 1 項に記載のデータ入力装置として機能させることを特徴とするプログラム。

【請求項 12】 コンピュータに請求項 8 乃至 10 の何れか 1 項に記載のデータ入力方法を実行させることを特徴とするプログラム。

【請求項 13】 請求項 11 又は 12 に記載のプログラムを格納したコンピュータ読み取り可能な記憶媒体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

すなわち、音声によって数値データを入力するためのデータ入力装置であって、過去に入力された数値データを保持する保持手段と、前記保持手段が保持する数値データから、入力されると推定される数値の範囲を求める計算手段と、数値を表現する音声が入力されると、当該音声に基づいて音声認識を行う音声認識手段と、前記音声認識手段による認識結果が示す数値が、当該計算手段により求めた範囲に含まれているか否かを判断する判断手段と、前記判断手段による判断結果に応じた内容を提示する提示手段とを備えることを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

すなわち、音声によって数値データを入力するためのデータ入力装置であって、過去に入力された数値データを保持する保持手段と、数値を表現する音声が入力されると、当該音声に基づいて音声認識を行う音声認識手段と、前記音声認識手段による認識結果が示す数値が、従前に入力された数値よりも大きい
か否かを判断する判断手段と、前記判断手段による判断結果に応じた内容を提示する提示手段とを備えることを特徴とする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

すなわち、過去に入力された数値データを保持するメモリを備え、音声によって数値データを入力するためのデータ入力装置が行うデータ入力方法であって、前記メモリが保持する数値データから、入力されると推定される数値の範囲を求める計算工程と、数値を表現する音声が入力されると、当該音声に基づいて音声認識を行う音声認識工程と、前記音声認識工程による認識結果が示す数値が、当該計算工程で求めた範囲に含まれているか否かを判断する判断工程と、前記判断工程による判断結果に応じた内容を提示する提示工程とを備えることを特徴とする。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

すなわち、過去に入力された数値データを保持するメモリを備え、音声によって数値データを入力するためのデータ入力装置が行うデータ入力方法であって、

数値を表現する音声が入力されると、当該音声に基づいて音声認識を行う音声認識工程と、

前記音声認識工程による認識結果が示す数値が、従前に入力された数値よりも大きいかな否かを判断する判断工程と、

前記判断工程による判断結果に応じた内容を提示する提示工程とを備えることを特徴とする。